

歴史と文化のまちづくりを進め 広がる人々の思い・深まる絆



▲そのべ本陣夏祭りの準備をする竹中さん

時代の移り変わりとともに日々変わっていく園部の商店街。その一角、園部町本町と新町に、かつての山陰街道の面影を残す町並みが今も残っています。この地域では「人々の絆、地域コミュニティ」が希薄化している。歴史ある美しい町家や京都匠塾の職人を始め、とても良い職人が作る『ほんまもん』が埋もれている。」と感じ、「もう一度商店街の人、訪れる人が集えるところになりたい。自分たちが主体となり歴史と文化のまちを発信したい」という思いを持ち、活動されている方々がおられます。

「まちなかを再発見する会」は平成21年から町家を舞台に年に4回祭りを催されています。今年度からは新しくオープンした園部まごころステーション「陽だまり」が加わり、「京都匠塾」と合わせて2団体と13人で活動。夏祭りでは、毎年行っている本陣屋台や合羽家のお茶席に加え、丹精を込め育てた100苗の朝顔を販売する「朝顔市」が開催されました。また陽だまりの中では、「子どものための人形劇」「東北利き酒」や商店街の手づくり料理などが並べられました。商店街には、子どもたちの元気な声が飛び交い、主催した



まちなかを再発見する会
代表
たけなか きよし
竹中 潔 さん

インタビュー

「まちなかを再発見する会」の方も祭りを楽しんでおられました。今ではたくさんの方が本陣地域に目を向けられるようになり、人気の本陣ちまきづくりをはじめ、次の祭りの準備に向けて毎日のようにみんなで話し合うなど、商店街の絆も深まっています。